

一般社団法人人文地理学会 2018 年（2017 年度）定時社員総会（会員総会）

2018 年 11 月 24 日 16 時 15 分～17 時 30 分 於：奈良大学 C-302（C 棟 3F 302 教室）

- <1> 開会宣言（石川義孝会長）
- <2> 議長選任（秋山道雄常任理事）
- <3> 代議員選挙の結果報告（秋山道雄常任理事） <別紙 1>
- <4> 定足数の確認、議事録の署名人 2 名（出席代議員から）の選出（秋山道雄常任理事）

<5>議事

報告事項

【I. 2017 年度 事業報告】

1. 庶務委員会（秋山道雄常任理事）

①会員の動向（2018 年 9 月 28 日現在）

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017(2017.10~2018.9)
会員	1,394	1,329	1,323	1,231	1,249 150	1,245 146	1,220 144	1,221(国内 1,215、海外 6) 他に団体会員 144
(学生)	(63)	(84)	(91)	(105)	(115)	(135)	(164)	(140)
入会	44	49	27	39	46	42	36	33
(学生)	(21)	(33)	(19)	(27)	(17)	(31)	(21)	(22)
退会	60	57	33	46	40	43	22	33
(学生)	—	—	—	—	—	—	—	(7)
資格喪失	—	57	—	44	—	15	—	54

*資格喪失は隔年（名簿発行年）

②交換・寄贈雑誌（2018 年 9 月 28 日現在）

国内交換雑誌 38 誌 海外交換雑誌 10 誌

③2017 年度常任理事会・社員総会・理事会の開催

常任理事会（定例 5 回）

社員総会（1 回）

理事会 5 回（12 月 7 日、4 月 14 日、7 月 14 日、9 月 29 日、10 月 20 日）

④2018 年度人文地理学会常任委員（任期：2018 年社員総会～2020 年社員総会）の委嘱

<別紙 2>

2. 会計委員会（中谷友樹常任理事）

①会費納入状況（2018 年 9 月 28 日現在）

会員数(個人) 1,221 名(内 海外会員 6 名)

第 70 巻完納: 937 名(納入率 78.6%)

第 69 巻まで(1 年未納): 175 名(内、住所不明 6)

第 68 巻まで(2 年未納): 49 名(内、住所不明 3)

3 年未納による資格喪失者 54 名

②部会の会計報告(2018 年 9 月 28 日現在)

(2017 年度部会会計)

研究部会名	予算円	支出円	残高円
歴史地理	80,000	22,269	57,731
地理思想	80,000	60,000	20,000
都市圏	80,000	42,582	37,418
地理教育	80,000	70,280	9,720
政治地理	80,000	36,480	43,520

③永年会費 42 名(うち 2017 年度中での移行者 9 名)

④国際地理オリンピックへの寄附

予算案通り 10 万円を寄付した。

⑤若手研究者国際会議派遣助成

本年度は 3 名が該当。

久島 桃代 200,000 円

丹羽 孝仁 80,000 円

松井 歩 100,000 円 (50 音順)

3. 編集委員会 (香川貴志常任理事)

① 定期刊行の実現 第 70 巻第 1 号より奥付通りの定期刊行を実現した。

② 雑誌編集状況

<別紙 3>

4. 集会委員会 (吉田容子常任理事)

①大会

*大会における書籍等展示の出展, および大会当日に配付する『研究発表要旨』巻末掲載の広告を, 学会ウェブサイトを通じて募集することとした。

1) 2017 年人文地理学会大会

明治大学駿河台キャンパス 2017 年 11 月 18 日(土)・19 日(日)

11 月 18 日(土) 午前 部会アワー (5 研究部会)

午後 特別研究発表 4 件, 定時社員総会, 懇親会

19 日(日) 午前・午後 一般研究発表 48 件(口頭発表 45 件, 公募セッション 1 組 3 件)

2) 2018 年人文地理学会大会

奈良大学 2018 年 11 月 23 日(金・祝)・24 日(土)・25 日(日)

11 月 23 日(金) 午後 エクスカーション 1 件

24日(土)午前 部会アワー (5研究部会 *うち2研究部会は共催)

午後 特別研究発表4件, 一般研究発表(ポスター発表12件)

定時社員総会, 懇親会

25日(日)午前・午後 一般研究発表52件(口頭発表40件, ポスター発表12件)

②例会

*特別例会以外の, 集会委員会が企画する例会は開催せず, 例会企画を会員から募集し, 集会委員会が判断のうえ, 年1~2回程度開催することとした。

第288回例会(特別例会)2018年6月23日(土)・24日(日)

6月23日(土)

シンポジウム 14:00~17:30, 東北公益文科大学酒田キャンパス

テーマ「山形県の文化遺産と地域資源」, 講演1件, 報告4件, 参加者55名(うち非会員29名)

懇親会 18:00~19:30, 同大学酒田キャンパス 新世紀館, 参加者26名(うち非会員3名)

6月24日(日) エクスカーション, テーマ「庄内の文化遺産を歩く」, 参加者27名(うち非会員7名)

第289回例会 2018年7月21日(土) 13:30~17:30

お茶の水女子大学文教育学部1号館第一会議室, 参加者29名

テーマ「ホームレス政策とジェントリフィケーション再考」, 発表2件, コメント2名

③研究部会

1) 歴史地理研究部会

第150回 2017年11月18日 大会部会アワー, 発表1件, 参加者23名

第151回 2018年8月4日(土) 14:00~17:00

京都大学吉田キャンパス人間・環境学研究科棟4階433講義室, 参加者20名

テーマ「卒業論文の発表会ー近世地誌と地理的知識の形成ー」発表2件, コメント2名

2) 地理思想研究部会

第126回:2017年11月18日 大会部会アワー, 発表1件, 参加者23名

第127回 2018年2月3日(土) 14:00~17:00 京都府立大学稲盛記念会館106教室
参加者16名, テーマ「「記憶」研究の現在」発表1件

第128回 2018年6月9日(土) 13:30~16:30, 京都府立大学 稲盛記念会館
「ポストフクシマの原発立地地域と地理学」発表1件, 参加者23名

第129回 2018年7月28日(土) 13:30~15:30, 大阪市立大学大学院創造都市研究科
梅田サテライト, 参加者13名, 「認知資本主義, 市場, 価値づけー政治経済学とアクター・ネットワーク理論の展開ー」, 発表1件

3) 都市圏研究部会

第61回 2017年11月18日 大会部会アワー, 発表1件(コメント付き), 参加者39名

第62回 2018年2月10日(土) 13:30~16:30, 経済地理学会関西支部と共催

草津川跡地公園 de 愛ひろば（区間 5）にぎわい活動棟「教養室」, 参加者 27 名
テーマ「近年における大都市圏郊外の変化」発表 2 件

第 63 回 2018 年 6 月 12 日（火）18:00~20:00, 経済地理学会関西支部と共催, 参加者 22 名

大阪市立大学梅田サテライト文化交流センター大セミナー室

“Air Transport and Urban Development in the Asia Pacific region”, Kevin O’ Connor 氏 (Professorial Fellow, University of Melbourne) の講演 1 件, ゲスト司会 2 名,

4) 地理教育研究部会

第 41 回 2017 年 11 月 18 日 大会部会アワー, 発表 1 件, 報告 1 件, 参加者 32 名

第 42 回 2018 年 4 月 28 日（土）10:00~17:00

近畿 2 府 4 県及び 4 政令都市の各教育委員会の後援

午前 エクスカーション, テーマ「神戸須磨の変貌と地域的性格」, 参加者 26 名

午後 講演と研究協議 (13:30~16:30) 神戸女子大学須磨キャンパス

テーマ「地理教育の中高接続を考える」講演 1 件, 参加者 38 名

第 43 回 2018 年 8 月 10 日（金）, 平成 30 年度地理教育夏季研修会

近畿 2 府 4 県及び 4 政令都市の各教育委員会の後援

午前 エクスカーション, テーマ「駅西地区」の地域変化と再開発, 参加者 39 名

午後 研究発表及び研究協議 13:30~17:00, 参加者 51 名, テーマ:「ESD の趣旨を踏まえた地理教育の在り方」, 龍谷大学大宮学舎, 講演 1 件, 発表 2 件, コメント 1 名

5) 政治地理研究部会

第 23 回 2017 年 11 月 18 日 大会部会アワー, 発表 1 件 (コメント付き), 参加者 35 名

第 24 回 2018 年 5 月 26 日（土）13:30~16:30, 新大阪丸ビル新館, 「発表公共施設へのネーミングライツ導入と合意形成—京都市美術館を事例に—」, 発表 1 件, コメント 1 名, 参加者 11 名

④2019 年の大会・特別例会について

2019 年人文地理学会特別例会

2019 年 6 月 8 日（土）・9 日（日）に愛知大学豊橋キャンパスで開催を予定

2019 年人文地理学会大会

2019 年 11 月 16 日（土）・17（日）・18 日（月）に関西大学千里山キャンパスで開催を予定（18 日はエクスカーション）

5. 企画委員会（矢野桂司常任理事）

① 第 18 回人文地理学会 学会賞

<別紙 4 >

・学会賞候補者選考委員会委員を以下の通り委嘱した（2017 年 12 月）。*印は委員長 [学術図書部門]・[学術図書部門奨励賞]

秋山元秀（滋賀短期大学、新任）*

荒井良雄（東京大学、留任）

生田真人（立命館大学、新任）

菊地俊夫（首都大学東京、新任）

[一般図書部門]

山崎 健 (神戸大学、留任) ※

小野寺 淳 (茨城大学、新任)

佐藤廉也 (大阪大学、新任)

野尻 亘 (桃山学院大学、新任)

[論文部門]

小方 登 (京都大学、留任) ※

池谷和信 (国立民族学博物館、留任)

島津俊之 (和歌山大学、留任)

富樫幸一 (岐阜大学、新任)

・学会賞候補者選考委員会(2018年3月21-22日)

東京学芸大学において、学会賞候補者選考委員会を部門別に開催した。各委員会では、9月下旬の答申までの委員会の進め方について意見交換がなされた。

・学会賞候補者選考委員会からの答申 (2018年9月)

各部門の候補者選考委員会から受賞候補者について答申があった。受賞候補者および候補図書・論文は以下の通りである。なお、本答申については、2018年9月29日の第4回理事会で承認された。

[学術図書部門]

受賞候補者：久木元美琴

受賞対象図書：『保育・子育て支援の地理学—福祉サービス需給の「地域差」に着目して』、明石書店、2016年、224頁。

[学術図書部門奨励賞]

受賞候補者：宮内洋平

受賞対象図書：『ネオアパルトヘイト都市の空間統治—南アフリカの民間都市再開発と移民社会—』、明石書店、2016年、452頁。

[一般図書部門]

受賞候補者：林 上

受賞対象図書：『名古屋圏の都市地理学』、風媒社、2016年、333頁。

[論文部門]

受賞候補者：谷本 涼

受賞対象論文：「都市郊外における病床へのアクセシビリティの将来推計—大阪都市圏北部の事例—」、『人文地理』第69巻第4号、2017年、425-446頁。

②地理学連携機構関連

・2018年3月21日、東京学芸大学で開催された第30回地理学連携機構、地理関連学会連合、人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会の合同総会において、本協議会の名称を「人文・経済地理関連学会協議会」とすることにした。

・総会では、以下のような事項を了承した。

(1) 2018年4月から2021年3月の地理学連携機構の代表と副代表はそれぞれ、氷見山幸夫氏と山川充夫氏から石川義孝氏と春山成子氏に、地理関連学会連合の議長と副議長は、山川充夫氏と松本淳氏から春山成子と小口高氏に、人文・経済地理関連学会協議会の議長と副議長は石川義孝氏と矢野桂司氏から松原宏氏と矢野桂司氏(留任)に交代する。なお、人文・経済地理関連学会協議会の副議長は2018年11月に交代の

予定。

(2) 2018年4月から2021年3月の協議会の事務局を人文地理学会に置く。

(3) 名称の変更にもなって要綱を改正すること。

(4) 運営委員として以下の学会の代表が当たること。

人文地理学会・経済地理学会・日本地理学会・歴史地理学会・日本地理教育学会・東北地理学会・地理科学学会

また、2017年度地理学連携機構の活動報告、第24期日本学術会議の活動報告、地球惑星科学連合の動向、2018年度活動方針、連携機構・連合・協議会の役員などについて意見交換がなされた。

さらに、地理学連携機構のもとに、2018年4月から「地理教育フォーラム」が設置されたことが報告された。

③ 若手研究者国際会議派遣助成

<別紙5>

・若手研究者国際会議派遣助成選考委員会委員を以下の通り委嘱した(2017年12月)。

*印は委員長

山崎孝史(大阪市立大学、留任2年目)*

村山祐司(筑波大学、留任1年目)、由井義通(広島大学、新任)

・第3回助成の募集を2018年2月末日で締め切ったところ、3名の申請があり、メールなどにより選考委員会が開催された。選考委員会では、提出された申請書および説明書に基づいて慎重な審査がなされ、この助成制度の趣旨に合致し、発表内容が優れている以下の3名に対して国際会議派遣助成を行うとの答申がなされた。そして、本答申は、2018年4月14日の第2回理事会で承認された。

助成対象者：久島桃代、丹羽孝仁、松井歩(50音順)

6. 広報委員会 (矢野桂司常任理事)

① 学会HPの運営

・学会の大会・例会・研究部会などの活動や、他学会などからの公募やセミナーなどの情報を、学会HPを通して社会に公開した。また、学会メーリングを用いて会員への情報提供を行った。

② 広報活動

・2017年大会(於：明治大学)での学会賞表彰式の様子などをHPに掲載するなど、学会活動に関する情報を会員および社会に周知することに努めた。

【Ⅱ. 2018年度事業計画】 (秋山道雄常任理事)

<別紙6>

【Ⅲ. 2018年度収支予算】 (中谷友樹常任理事)

<別紙7>

審 議 事 項

【Ⅰ. 2017 年度決算】 (中谷友樹常任理事) <別紙 7>

【Ⅱ. 2018 年度—2019 年度役員の選任】 (秋山道雄常任理事) <別紙 8>

<新会長・新常任理事登壇>

【Ⅲ. 2018 年度- 2019 年度常任理事の紹介】 (新会長)

庶務担当	小島 泰雄
会計担当	福田 珠己
編集担当	島津 俊之
集会担当	香川 貴志
企画・広報担当	松田 隆典

【Ⅳ. その他】

新会長 (代表理事) 挨拶

<6> 閉会宣言、議長解任 (秋山道雄常任理事)

一般社団法人人文地理学会代議員(任期:2018年10月～2020年9月)		
青山 宏夫	米家 泰作*	埴淵 知哉
天野 太郎*	作野 広和	林 和生
網島 聖	佐藤 廉也*	林 上
荒又 美陽	佐野 静代	原口 剛
安藤 哲郎	澤 宗則	福田 珠己**
池口 明子	柴田 陽一	福本 拓
出田 和久	島津 俊之**	藤田 裕嗣
伊東 理	志村 喬	藤塚 吉浩
伊藤 達也	須原 洋次	二村 太郎
稲垣 稜	祖田 亮次*	松井 圭介
今里 悟之	竹内 裕一	松田 隆典**
岩鼻 通明	辰己 勝	松原 宏
岩本 廣美	谷 謙二	水内 俊雄
上杉 和央*	田原 裕子	水野 勲
上田 元	筒井 一伸	水野 一晴
大城 直樹	堤 純	宮澤 仁
小方 登	寺床 幸雄	村中 亮夫
岡橋 秀典*	寺谷 亮司	森 正人
岡本 耕平	戸所 隆	森本 泉
遠城 明雄	友澤 和夫	矢ヶ崎 典隆
加賀美 雅弘	豊田 哲也	矢野 桂司*
香川 貴志**	中川 聡史	山神 達也
梶田 真	中川 秀一	山口 覚
鹿嶋 洋	中澤 高志	山下 博樹
河島 一仁	中島 弘二	山近 久美子
神田 孝治*	中村 周作	山元 貴継
北川 博史	中谷 友樹	由井 義通
北川 眞也	西岡 尚也	横山 智
金 科哲	西野 寿章	吉田 国光
久木元 美琴	根田 克彦*	吉田 容子
熊谷 圭知	野中 健一	吉水 裕也
鋏塚 賢太郎	野間 晴雄***	若林 芳樹
後藤 拓也	箸本 健二	
小長谷 有紀	橋本 雄一	
* 理事	** 常任理事	*** 代表理事

2018年度人文地理学会常任委員
(任期：2018年社員総会～2019年社員総会)

委員会の常任委員（*は常任理事、__は新常任委員）

庶務： *小島泰雄 石田 曜 山本俊一郎

会計： *福田珠己 木村大輔 長谷川奨悟

編集： *島津俊之 上杉和央（総務） 天野太郎 荒木一視 石川雄一 岩本廣美
大石太郎 香川雄一 片岡博美 木村圭司 楢塚賢太郎 古賀慎二
橘 セツ 立見淳哉 波江彰彦 中辻 享 三木理史

集会： *香川貴志 佐藤廉也 須原洋次 堀内千加 吉田国光

企画： *松田隆典 柴田陽一 根田克彦 吉水裕也

広報： *松田隆典 飯塚隆藤 中村 努

2017年度 会務報告(編集委員会)

『人文地理』編集状況

	11.11.	01.06.	03.03.	05.12.	07.07.	09.15.	合計	総計	2016	2015	2014	2013	2012	2011
論説 新規	2	1	1		2	3	9	18	23	26	15	20	23	26
論説 再投稿	1	3	1	1	1	2	9	0	1	8	4	8	7	6
展望 新規							0	0	1					
展望 再投稿							0	0						
研究ノート新規	1	1	1	1	1	1	6	14	28	20	14	10	8	26
研究ノート再投稿	3	2	1	1		1	8	0						
フォーカス 新規	1						1	1	6	4	1	集計なし	集計なし	集計なし
フォーカス 再投稿							0	0						
合計	8	7	4	3	4	7	33	33	58	58	38	38	43	58
論説 採択	1		1		1	1	4	18	6	6	5	5	5	7
論説 再投稿要請	2	2	1	1	1	2	9	12	12	12	8	8	0	6
論説 返却		2			1	2	5	8	8	5	5	5	5	13
展望 採択							0	0	2	2	1	1	1	2
展望 再投稿要請							0	0	4	4	4	4	4	3
展望 返却							0	0	2	2	0	2	1	1
研究ノート 採択	1	2	1	1			5	14	6	6	2	2	2	8
研究ノート 再投稿要請	2	1	1			1	5	10	10	10	3	3	3	11
研究ノート 返却	1			1	1	1	4	4	4	4	2	2	2	7
フォーカス 採択							0	1	2	2				
フォーカス 再投稿要請							0	0	2	2				
フォーカス 返却	1						1	2	2	0	非集計	非集計	非集計	非集計
合計	8	7	4	3	4	7	33	33	58	58	31	31	31	58

- ・該当期間中、英文特集はなかった。
- ・原稿種別変更における再投稿の場合は、当初種別では「返却」、再投稿時の種別では「新規」として計上した。
- ・編集委員会外部レフリー率:50.0%-副査:100%(2016年度:48.0%、2015年度:40.2%、2014年度:10.8%、2013年度:21%)

若干のコメント

	2017	2016	2015	2014	2013	2012		2017	2016	2015	2014	2013	2012
論説採択率	22%	22%	23%	20%	28%	28%	論説返却率	28%	30%	31%	53%	28%	28%
展望採択率	—	100%	25%	25%	17%	17%	展望返却率	—	0%	25%	25%	17%	17%
研究ノート採択率	36%	21%	30%	36%	29%	29%	研究ノート返却率	29%	14%	20%	21%	29%	29%
フォーカス採択率	0%	33%	50%	100%	非集計	非集計	フォーカス返却率	100%	17%	0%	0%	非集計	非集計
全体採択率	27%	24%	28%	29%	26%	26%	全体返却率	30%	21%	24%	35%	26%	26%

- (1) 昨年・一昨年に比して、「論説」は微減、「研究ノート」が半減した。「論説」で投稿され、編集委員会で審議の結果「研究ノート」への種別変更を要請しても「論説」に再投稿し、返却に至るケースが散見される。特に大学院生が投稿する際には「丁寧な論文指導をお願いしたい。研究内容を見極めたうえでの種別判断、および一層多くの投稿を期待したい。
- (2) 全体採択率は前年度と比べて僅かに上昇し、一昨年までの状況に近づいた。
- (3) 「編集委員会3週間前の火曜日(25日前)」が定着してきたこともあり、全ての投稿で副査を編集委員ではない会員に依頼することができた。この場を借りて、副査としてお力添えをいただいた方々に衷心より御礼申し上げたい。
- (4) 第70巻第1号より会誌を奥付通りに発行出来ている。この状況の維持(定期刊行)に最善の努力を続けたい。

『人文地理』各号 発行状況

	総頁数	論説	展望	研究ノート	フォーカス	書評	英文
69巻3号	146	24	69	22	0	8	2
69巻4号	105	22	0	38	15	8	4
70巻1号	192	47	0	38	17	8	4
70巻2号	120	22	0	57	0	12	4
合計	563	115	69	155	32	36	14
2016年度合計	534	188	96	54	16	38	
2015年度合計	460	8	1	5	2	12	
2014年度合計	568	12	3	6	1	13	
2013年度合計	602	14	2	3	2	0	

- * 第68巻1号より本誌は隔月刊から季刊へ移行した。
- * 第70巻第1号には歴代会長のエッセー(人文地理学会創設70周年記念特集)が23頁含まれている。英文占有率:2.5%(2016年度:20%、2015年度:23%、2014年度:21%)。久々に英文特集が無かったことが影響して、英文占有率が著しく下がった。

2018年9月29日 理事会

(起案：企画委員会)

第18回(2018年)人文地理学会 学会賞 選考結果(選考委員会答申)

●学術図書部門

受賞候補者：久木元美琴

受賞対象図書：『保育・子育て支援の地理学—福祉サービス需給の「地域差」に着目して』、
明石書店、2016年、224頁。

●学術図書部門奨励賞

受賞候補者：宮内洋平

受賞対象図書：『ネオアパルトヘイト都市の空間統治—南アフリカの民間都市再開発と移民
社会—』、明石書店、2016年、452頁。

●一般図書部門

受賞候補者：林 上

受賞対象図書：『名古屋圏の都市地理学』、風媒社、2016年、333頁。

●論文部門

受賞候補者：谷本 涼

受賞対象論文：「都市郊外における病床へのアクセシビリティの将来推計—大阪都市圏
北部の事例—」、『人文地理』第69巻第4号、2017年、425-446頁。

以上

第18回人文地理学会学会賞候補者選考委員会からの答申

[学術図書部門]

2018年9月21日

一般社団法人 人文地理学会会長 石川義孝様

第18回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者選考委員会

委員長 秋山元秀

委員 荒井良雄，生田真人，菊地俊夫

本委員会は、第18回人文地理学会学会賞（学術図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：久木元美琴

受賞対象図書：『保育・子育て支援の地理学—福祉サービス需給の「地域差」に着目して』、
明石書店，2016年，224頁。

選考理由：

本書は、現代日本で最も深刻な社会問題の一つである保育と子育て支援について、社会学や社会福祉学など、従来この問題を扱ってきた社会科学からの視点だけではなく、「多様化」と「地域」という二つのキーワードをもとに、人文地理学の視点、すなわち「福祉の地理学」からアプローチし、地域という場を踏まえた保育・子育てのあり方を探ろうとしたものである。

本書の構成を概観すれば以下のようなになる。

第1章「子育て支援と地域」において、基本的な視点として「福祉の地理学」を掲げ、日本における保育供給の展開を概観したあと、第2章「保育をめぐる地理的諸相」では、保育を都市域、とくに大都市圏における家族の生き方、働き方としてとらえようという問題意識が明確にされる。それを追求するための具体的な実証研究として、第3章と第4章では「都心は子育ての場となりうるか」という設問のもとに、都心部の再開発や都心部と郊外との間の人口移動が新しい局面を迎えるとともに、保育についても新しい事態が発生していることを指摘する。続く第5章と第6章では、保育需要が充足されない都市域を取り上げ、通常の保育施設では足りない条件の下で、独特の制度やボランタリーな資源の活用によって保育が行われている例を示す。すなわち大都市域における保育といっても、その実態は多様であり、それぞれの地域のもつ条件によって異なることが明らかにされている。

続く第7章と第8章では、「ローカルなニーズ，ローカルなサービス」として、一方では能登の七尾という観光地、もう一方では臨海工業地帯である川崎市をフィールドとして、ローカルな保育ニーズにあわせたローカルな保育サービスが行われている実態を明らかにしている。すなわち大都市域だけではなく、地方においても、また住宅地だけではない工

業地帯においても、保育に対する要求は様々な形で表れており、それに対する地域における行政施策や家族の対応も多様であることを示している。また川崎の事例は乳幼児の保育ではなく学童保育を取り上げており、勤労世帯の就学児童の保育に対するニーズとサービスを別の面から明らかにしている。

最後の第9章「地域に即した子育て支援に向けて」は、それまでの実証研究による分析をまとめながら、大都市圏と地方圏の双方において子育て支援をめぐる固有の問題があることを指摘しつつ、同時に時空間的制約をのりこえた領域横断的かつ包括的な取り組みが必要であることを提言している。なかでも地方圏での多様なサービスを必要とする「「待機児童がゼロ」ならよいのか？」という問題提起は印象深い。

以上の概観が示すように、本書は保育と子育てという現代社会の実践的な課題に対して、地域差、地域の多様性という人文地理学のもっとも基本的な概念を主軸において、大都市圏の都市地理学的分析、地方圏における社会地理学的分析を駆使して、福祉という局面から地域の実相に迫ることに成功している。さらに地域の実情に即した政策の提言にまで及んでいることも本書の価値を高めている。社会福祉学には地域福祉（コミュニティケア）という領域もあり、地域やコミュニティという枠組みから福祉を考えることの重要性は認識されている。しかし実際の研究や活動では、地域の基本的な性格やコミュニティのありかたの地域差などは、観念的にとらえられるだけで、多様で変化に富んだ地域の動態を踏まえることは十分には行われていない。とくに大都市圏から地方圏というマクロな圏域から都市内部のミクロな地域社会まで、視角のスケールを変える手法は地理学の得意とするところである。本書のような人文地理学からのアプローチは、関連する隣接分野に対しても裨益するところが大きいと思われる。今後、保育や子育てのみならず、現代日本社会が抱えている様々な現実問題に対し、筆者の研究が展開していくことを期待したい。

以上、本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

【学術図書部門奨励賞】

2018年9月21日

一般社団法人 人文地理学会会長 石川義孝様

第18回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者選考委員会

委員長 秋山元秀

委員 荒井良雄，生田真人，菊地俊夫

本委員会は、第18回人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：宮内洋平

受賞対象図書：『ネオアパルトヘイト都市の空間統治—南アフリカの民間都市再開発と移民社会—』，明石書店，2016年，452頁。

選考理由：

本書はアパルトヘイトが撤廃され、民主的な社会が生まれることを期待された南アフリカにおいて、人種ではなく社会階層間の経済格差が広がり、様々な社会問題が深刻化していく実態を、都市の空間構造とそこに展開する政治的支配の在り方から描き出し、そこに存在する構造的不正義を克服するために、どのような視点をもつべきなのかを論じている。

筆者はもともと修士課程でタンザニアの調査でアフリカ研究にかかわり、その後南アフリカ日本大使館に勤務したり、南アフリカの大学院に在籍したりするなど、10年に及ぶ現地生活を経験している。本書はその間に培われた問題意識のもとに執筆された学位論文がもとになっている。その構成を概観すると以下のとおりである。

序章「自由の迷走」では、アパルトヘイト撤廃後の混迷を深める南アフリカの抱える様々な問題のなかでも、新自由主義の流れの下で進行している都市空間の所有関係や統治機構の私有化・民営化が、どのような事態をもたらしているかを俯瞰し、この都市社会が抱える構造的問題を明らかにしたいという問題意識を明らかにする。

そのための理論的支柱としてはD.ハーヴェイやE.ソジャの資本主義批判の地理学のみならず、R.カステルの労働社会学、P.ラビノウの人類学、I.ヤングの政治哲学など、多様な関連分野の言説をとりいれており、とりわけM.フーコーの空間論や権力論に深い示唆を受けていることがうかがえる。

第1章「南アフリカと新自由主義」で、ポストアパルトヘイト社会として現代の南アフリカ全体の問題をみたあと、第2章「例外空間と構造的不正義」から、本書が対象としているヨハネスブルグにおいて、新自由主義のもとでいかにいびつな発展が実現しているかを述べていく。第2章では新自由主義のもと展開するグローバリズムが、ヨハネスブルグを要塞都市と化し、不均衡な発展をしていることを示す。第3章「アパルトヘイトとフォーディズム」は南アフリカにおいて、社会全体を統治する原理であったアパルトヘイトと、近代資本主義社会を成立させたフォーディズムがどのように結びついていたかをふりかえ

り、それが現代の新資本主義時代になって、ポストフォーディズムというべき統治社会を生み出していると指摘する。

そして第4章「インナーシティの空間編成史」以下で、ポストアパルトヘイトの社会構造が、ヨハネスブルグの都市内部の空間構造の変貌といかにかかわっているかを詳述していく。1980年代から始まったインナーシティの空洞化は、創造的破壊といわれる変動期であったが、それはスーパーブロック化と称される小規模な閉鎖的街区を形成するものでもあった。その結果インナーシティは都心としてのまとまりも失い荒廃していった。しかし2010年ころからインナーシティの復興が世界水準のアフリカ都市を目指す南アフリカの課題となり、再開発が進められるようになった。しかしこれは第二次創造的破壊というべきもので、インナーシティのプライベート都市化を進めることになった。ここで筆者が研究対象として選んだのが、再開発の成功例とされる **Maboneng** の都市改良地区である。**Maboneng** とは「光の場所」を意味する現地語で、民間の不動産開発企業が開発を行い、クリエイターやアーティストが集まる「光の都市」として希望にあふれているように見えた。第6章「「光の都市」の誕生」で筆者はこの様子を極めて具体的に、そこに暮らす人々の多くの証言を集めて記述している。

しかし **Maboneng** のすぐ近くにある鉄道の **Jeppe** 駅周辺は、経済成長に沸くヨハネスブルグを目指してやってくる国内外からの移民であふれ、スラム化した地区での生活は **Maboneng** とはまるで別世界である。第7章「闇の都市」に生きる移民」でその模様が活写されている。アパルトヘイトの時代とは異なるが、一つの都市、一つの地域に「光と闇」が同居しているという構造は変わらないのである。第8章「「光の都市」のネオアパルトヘイト」は、希望に満ちた都市世界であった **Maboneng** が富裕層の専有物になっている（ジェントリフィケーション）という批判を浴びていく過程を描いている。それは南アフリカにとって新しいアパルトヘイトに他ならないという批判でもあった。第9章「「光の都市」の社会工学」でこのような矛盾を克服するための理論的取り組みと、**Maboneng** にかかわっている人々の「光の都市」らしいコミュニティの創造に向けての新しい試みを紹介している。第10章「「光の都市」の葛藤」と終章「正義への責任のために」は、光と闇に引き裂かれながら、一局面だけをとりあげて批判に終始するのではなく、矛盾や構造的不正義を認識しながら、それに責任をもって対処していくことが大切であることを説いている。

南アフリカは、アフリカ世界の中でも最も西欧に近く、近代化においても **BRICs** に肩を並べるほどであり、ヨハネスブルグという大都市を発展させ、社会的にもアパルトヘイト撤廃を実現して民主化に邁進するかと思われていた。しかし新資本主義やグローバリズムの中で、ネオアパルトヘイトといわれるような矛盾をはらんだ都市社会が出現している。これを本書は豊富なフィールドワークやインタビューに基づいて、極めて具体的に説得力をもって描き出し、そこにある課題を先鋭な問題意識をもって議論している。さらにこの都市構造の変貌の背景にある政治権力や経済構造についても適切に論及している。本書によって人文地理学からするアフリカ地域研究に、すぐれた一作が加わったことをよろこび

たい。

以上、本書は人文地理学会学会賞（学術図書部門奨励賞）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

[一般図書部門]

2018年9月21日

一般社団法人 人文地理学会会長 石川義孝様
第18回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者選考委員会
委員長 山崎 健

委員 小野寺 淳, 野尻 亘, 佐藤廉也

本委員会は、第18回人文地理学会学会賞（一般図書部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：林 上

受賞対象図書：『名古屋圏の都市地理学』，風媒社，2016年，333頁。

選考理由：

本書は名古屋大都市圏という都市地域を地理学の観点からとりあげた都市地誌である。そこでは、名古屋圏の地域性、地域構造を、地形環境への適応、集落形成の歴史、産業発展と人口・居住環境、生活文化やコミュニティ、環境問題から都市計画の歴史と現在・未来など広範な側面から検討を加えている。また、「位置の条件」・「地域相互関係の条件」といった地域性考察の着眼点の提示を含め、生態・形態・構造・機能・立地・行動・制度論などの既存の都市地理学における理論的研究成果をふまえ、名古屋大都市圏の地域性に関して、総合的かつ系統的な理解を与えるものであり、長らく本格的な地誌研究がみられなかった都市地理学分野にとっても労作であり、地理学全体の地誌研究にも一石を投ずる著作である。

本書は学術図書としての性格も十分に備えているが、筆者が述べているように、勤務する名古屋大都市圏の大学において、地元の例を引き合いに出しながら、都市地理学や経済地理学の講義を重ねてきた経験をふまえたものであり、すぐれた内容を、難解な表現ではなく容易でわかりやすく明快に説明しており、一般図書としても高く評価される。

細分化が進み、地理学とはどのような学問か、ということが不明瞭になりつつある現在、本書は本来の地理学の存在意義を説得力をもって訴えかける労作である。

以上のことから、本書は人文地理学会学会賞（一般図書部門）の授与にふさわしい優れた著作であり、著者をその候補者として推薦する。

[論文部門]

2018年9月21日

一般社団法人 人文地理学会会長 石川義孝様
 第18回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者選考委員会
 委員長 小方 登
 委員 池谷和信，島津俊之，富樫幸一

本委員会は、第18回人文地理学会学会賞（論文部門）候補者として下記の会員に決定したので、選考理由を付して以下の通り答申する。

記

受賞候補者：谷本 涼

受賞対象論文：「都市郊外における病床へのアクセシビリティの将来推計—大阪都市圏北部の事例—」、『人文地理』第69巻第4号，2017年，425-446頁。

選考理由：

本論文は、高齢化に直面する大都市圏郊外において、生活の質を構成する医療サービスへのアクセシビリティを計量的に評価したものである。大阪大都市圏北部を対象地域とし、各地区住民にとって、必要とする病床の利用しやすさを、人口と交通（公共交通と自動車）データに基づき、二段階需給圏浮動分析法を用いて明らかにした。現状の分析にとどまらず、2025年における将来推計を行い、医療・介護サービスの「不足と格差」を示したことが、とくに有意義である。日本では今後急速な高齢化が予想され、住民に対するケアの供給が喫緊の課題であるが、本論文では精緻なモデルと具体的で詳細なデータを用いることで、この課題に意欲的に取り組んだ。データを分析するだけでなく、自治体の「立地適正化計画」などの制度的・政策的背景をふまえた複数シナリオの考察や政策提言に言及していることも、高く評価できる。モデルと現実そして政策との間の溝を埋める努力が反映された力作といえよう。

地理学分野へのコンピュータ導入を受けて成立した計量地理学は、その後地理情報システム（GIS）へと発展しつつ、モデルの精緻化が進められてきた。そのなかで各種アクセシビリティ測度も論じられ、人文地理学にとって重要な応用分野となった。しかしコンピュータへのインプットに際し現実の抽象化が避けられない以上、扱う現象の具体的側面に注視することを通して、提示するモデルを現実に即したものに近づける努力が、不断に求められよう。本論文は、人文地理学における地理情報技術応用の進むべき道を示したものと見える。

以上により、本論文は人文地理学会学会賞（論文部門）の授与に値するものであり、著者をその候補者として推薦する。

2018年3月21日

一般社団法人 人文地理学会会長
石川義孝殿

人文地理学会若手研究者国際会議派遣助成選考委員会

委員長 山崎孝史

委員 村山祐司

委員 由井義通

2018年若手研究者国際会議派遣助成選考結果（答申）

提出された申請書および説明書に基づき慎重に審査した結果、この助成制度の趣旨に合致し、発表内容が優れている3名を採択者とした。

交付認定者： 久島桃代 会員、丹羽孝仁 会員、松井歩 会員 （会員名簿掲載順）

2018年4月7日 常任理事会
2018年4月14日理事会（承認）
2018年11月24日 総会

第3回 若手研究者国際会議派遣助成の選考結果（案）

2018年3月21日付で若手研究者国際会議派遣助成選考委員会より別紙の通り答申がなされました。この答申にもとづき、下記の通り、本助成の採択者および助成額を決定します。

記

採択者名：久島 桃代 会員

発表タイトル：Embodied memories and places: Female migrant narratives about karamushi in Showamura, Fukushima prefecture

（和訳）身体化される記憶と場所—福島県昭和村・「からむし」をめぐる女性移住者たちの語りから—

研究集会名：2018 IGU Regional Conference (Canada, Quebec City)

助成額：金200,000円

採択者名：丹羽 孝仁 会員

発表タイトル：The inter-regional and industrial Structure of transactions among companies in Tochigi

（和訳）栃木県企業の企業間取引に関する地域間産業間構造

研究集会名：2018 IGU Regional Conference (Canada, Quebec City)

(C9-SP1. Dynamics of Economic Spaces, IGU Commissions & Organized Sessions)

助成額：金80,000円

採択者名：松井 歩 会員

発表タイトル：Livelihood portfolios of fishery households in Developed countries: A case of Noto-jima island, Noto Peninsula, Japan

（和訳）先進国における漁家の生業の組み合わせ:能登半島能登島の事例

研究集会名：2018 IGU Regional Conference (Canada, Quebec City)

(Marine Studies and Coastal Zone Management Study Group, SG12, CAG study Groups)

助成額：金100,000円

※会員名簿掲載順

（以上）

【Ⅱ. 2018年度事業計画】

2018.10.25作成

月	理事会	大会	編集	例会・部会	他学会	前年度
2018年 11月	24:理事会	24-25:奈良大	17日	3:政治地理部会 24:大会部会アワー		18-19:明治大 11:編集委
12月	15:常任理事会 22:理事会		70巻4号発行	1:歴史地理部会・地理思想 部会合同部会		2:常任理事会 9:理事会
2019年 1月		26:大会準備委	12日			6:編集委
2月						3:大会準備委 3:地理思想部会 10:都市圏部会
3月			16日 71巻1号発行		20-22:日本地理学会大会	3:編集委 22-24:日本地理学会大会
4月	6:常任理事会 13:理事会					7:常任理事会 14:理事会 28:地理教育部会
5月			11日		25-27:経済地理学会大会 18-20:歴史地理学会大会	12:編集委 26:政治地理部会 26-28歴史地理学会大会 26-28:経済地理学会大会
6月			15日 71巻2号発行	8-9:特別例会(愛知大学)		23-24特別例会 (東北公益文科大学) 9:地理思想部会 12:都市圏部会 17-18:歴史地理学会大会
7月	6:常任理事会 13:理事会		6日			7:常任理事会 14:理事会 7:編集委 28:地理思想部会
8月						4:歴史地理部会 10:地理教育部会
9月	21:常任理事会 28:理事会	大会準備委	14日 71巻3号発行		21-23:日本地理学会大会	22:常任理事会 29:理事会 15:編集委 8:大会準備委 22-24日本地理学会大会
10月	12:常任理事 会 19:理事会				19-20:地理情報システム学会 経済地理学会地域大会	13:常任理事会 20:理事会 20-21:地理情報システム学会 (首都大学東京) 28-29:経済地理学会地域大会 (栃木)
11月		16-18:関西大	9日			17:編集委 24-25:大会(奈良大学)
12月			71巻4号発行			:常任理事会 :理事会 1:歴史地理部会・地理思想部会 合同部会

＜収入の部＞

科目	18年度予算
1 会費	¥11,000,000
2 出版物売上	¥1,150,000
3 雑収入	¥1,500,000
4 大会収入(参加費・広告)	¥900,000
5 受取利息	¥2,000
6 未払い費用(課・名)	¥0
計	¥13,202,000

著作権協会等

＜支出の部＞

科目	18年度予算
1 雑誌生産費	¥4,200,000
2 編集費	¥400,000
3 雑誌発送費	¥600,000
4 集金費	¥200,000
5 大会開催費	¥1,400,000
6 研究会運営費	¥400,000
7 給料手当	¥2,370,000
8 保険料	¥350,000
9 旅費・交通費	¥300,000
10 通信費	¥250,000
11 顕彰事業費	¥50,000
12 企画・広報事業費	¥40,000
13 会合費	¥90,000
14 選挙費	¥0
15 選挙費積立金	¥100,000
16 諸印刷費	¥20,000
17 名簿作成発送費	¥0
18 名簿作成発送費積立金	¥100,000
19 消耗品費	¥150,000
20 機械借上費	¥100,000
21 室料(家賃・光熱費)	¥1,250,000
22 相談手数料	¥100,000
23 寄付金	¥100,000
24 若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000
25 租税公課	¥70,000
26 諸会費	¥50,000
27 予備費	¥12,000
計	¥13,202,000

奇数年度に10万円

偶数年度に10万円

奇数年度に10万円

偶数年度に10万円

2018年度は事務局を更新

当月の家賃と前月の電気代

司法書士・税理士謝金

国際地理オンライン寄付

IGU京都人会からの寄付金を活用

法人税、収入印紙代

日本学術協会の刊

雑費も含む

収支差額

¥0

＜収入の部＞

科目	17年度予算	17年度決算	執行率	差額
1 会費	¥11,500,000	¥10,870,400	94.5%	-629,600
2 出版物売上	¥1,300,000	¥983,433	75.6%	-316,567
3 雑収入	¥100,000	¥105,348	105.3%	5,348
4 大会収入(参加費・広告)	¥800,000	¥891,500	111.4%	91,500
5 受取利息	¥2,000	¥1,121	56.1%	-879
6 未払い費用(課・名)	¥200,000	¥200,000	100%	0
計	¥13,902,000	¥13,051,802	93.9%	-850,198

＜支出の部＞

科目	17年度予算	17年度決算	執行率	差額
1 雑誌生産費	¥3,800,000	¥4,608,357	121.3%	-808,357
2 雑誌期首棚卸高		¥807,380		
3 雑誌期末棚卸高		-¥1,133,905		
4 編集費	¥450,000	¥298,145	66.3%	151,855
5 雑誌発送費	¥550,000	¥574,042	104.4%	-24,042
6 集金費	¥210,000	¥175,762	83.7%	34,238
7 大会開催費	¥1,400,000	¥1,656,729	118.3%	-256,729
8 研究会運営費	¥400,000	¥231,611	57.9%	168,389
9 給料手当	¥2,370,000	¥2,625,000	110.8%	-255,000
10 保険料	¥350,000	¥344,368	98.4%	5,632
11 通信費	¥300,000	¥291,330	97.1%	8,670
12 顕彰事業費	¥250,000	¥255,860	102.3%	-5,860
13 企画・広報事業費	¥70,000	¥48,861	69.8%	21,139
14 会合費	¥100,000	¥0	0.0%	100,000
15 選挙費	¥100,000	¥70,641	70.6%	29,359
16 選挙費積立金	¥200,000	¥406,445	203.2%	-206,445
17 選挙費積立金	¥0	¥0	0.0%	0
18 諸印刷費	¥30,000	¥39,312	131.0%	-9,312
19 名簿作成発送費	¥200,000	¥270,000	135.0%	-70,000
20 名簿作成発送費積立金	¥0	¥0	0.0%	0
21 消耗品費	¥100,000	¥58,300	58.3%	41,700
22 機械借上費	¥150,000	¥105,392	70.3%	44,608
23 室料(家賃・光熱費)	¥1,250,000	¥1,225,881	98.1%	24,119
24 相談手数料	¥100,000	¥93,879	93.9%	6,121
25 寄付金	¥100,000	¥100,000	100.0%	0
26 若手研究者国際会議派遣助成	¥500,000	¥380,000	76.0%	120,000
27 租税公課	¥70,000	¥70,000	100.0%	0
28 諸会費	¥50,000	¥50,000	100.0%	0
29 J-stage雑誌公開費	¥1,400,000	¥1,345,680	96.1%	54,320
30 雑費	¥20,000	¥0	0.0%	20,000
31 予備費	¥150,000	¥0	0.0%	150,000
計	¥14,670,000	¥14,999,070	102.2%	-329,070

収支差額

-¥1,947,268

＜繰越金＞

前期末純資産額

¥31,539,720

今期末純資産額

¥29,592,452

損益計算書

自平成29年10月1日 至平成30年9月30日

一般社団法人人文地理学会

(単位:円)

科目	金額	
(経常損益の部)		
【経常収益】		
受取会費	10,870,400	
事業収入	983,433	
受取負担金	891,500	
財務収益	1,121	
その他収益	105,348	
経常収益計		12,851,802
【経常費用】		
(事業費)		
期首会誌棚卸額	807,380	
会誌生産費	4,608,357	
期末会誌棚卸額	▲ 1,133,905	
大会開催費	1,656,729	
顕彰事業費	48,861	
若手研究者国際会議派遣助成事業費	380,000	
事業費計		6,367,422
(管理費)		
給料手当	2,625,000	
保険料	344,368	
集会費	175,762	A26
編集費	298,145	
研究部会運営費	231,611	
旅費交通費	291,330	
通信費	255,860	
雑誌発送費	574,042	
会合費	70,641	
選挙費	406,445	
諸印刷費	39,312	
名簿作成発送費	270,000	
消耗品費	58,300	
賃借料	105,392	
地代家賃	1,225,881	
租税公課	70,000	
相談手数料	93,879	
寄付金	100,000	
諸会費	50,000	
J-stage雑誌公開費	1,345,680	
管理費計		8,631,648
経常費用計		14,999,070
経常利益		▲ 2,147,268
(経常外損益の部)		
【経常外収益】		
選挙費積立金取崩額	100,000	
名簿作成発送費積立金取崩額	100,000	
経常外収益計		200,000
当期純利益		▲ 1,947,268

貸借対照表

平成30年9月30日現在

一般社団法人人文地理学会

(単位:円)

資産の部		負債・純資産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金及び預金	26,342,016	預り金	49,390
会誌	1,133,905		
仮払金	676,160		
未収入金	89,761		
流動資産合計	28,241,842	流動負債合計	49,390
		負債の部合計	D23 49,390
【固定資産】		純資産の部	
投資その他の資産		基金	0
保証金	1,400,000	剰余金	29,592,452
その他固定資産合計	1,400,000		
固定資産合計	1,400,000	純資産の部合計	29,592,452
資産合計	29,641,842	負債及び純資産合計	29,641,842

1.重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成している。

②資産の評価基準及び評価方法

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

会誌:最終仕入原価法による原価法

附属明細書

1. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
選挙費積立金	100,000	0	100,000	0
名簿作成送付費積立金	100,000	0	100,000	0

2018年度～2019年度 人文地理学会監事候補者（2名）

出田 和久

伊藤 理

2018年度～2019年度 人文地理学会理事候補者（21名）

天野 太郎

荒木 一視

上杉 和央

岡橋 秀典

香川 貴志

香川 雄一

神田 孝治

小島 泰雄

米家 泰作

佐藤 廉也

島津 俊之

祖田 亮次

田中 和子

田和 正孝

堤 研二

根田 克彦

野間 晴雄 ※代表理事（会長）

福田 珠己

松田 隆典

矢野 桂司

山村 亜希

※2018年7月14日の理事会において、河原典史選挙管理委員会委員長より報告され、承認。